製剤と粒子設計部会報告

Activity Report of Division of Particulate Preparation and Design

1．はじめに

本部会は，粉体工学会内の唯一の部会として活動している。年に1度のシンポジウムの主催，3度の見学講演会の共催（主催は(社)粉体工業技術協会・粒子加工技術分科会）を原則としている。後者の共催に関しては，主として講演の部に責任を持つこととしているが，企画の段階から合同で討議をしており，その枠にとらわれず最善と考えられる案を採用する方針で決定，実行が行われている。また，シンポジウムの企画，運営も同様な体制で臨んでいる。さらに，製剤操作に関するワークショップとして標準処方研究会，さらに特別講演会等の開催も適宜行っている。以下に，17－18年度の活動概要を報告する。なお，見学講演会に関しては，粉体工業技術協会の年度に従いタイトルを設定しているため，本報告の年度と一部ずれが生じて判り難くなっているところはご了承願いたい。

2．平成17年度活動状況

17年度より部会長のバトンを竹内が前部会長川島より受けた。ホームページの整備，シンポジウムの運営に実行委員会を組織するなどのマイナーチェンジは行ったが，基本は従来どおりで変更することなく各行事を行った。

紙面の関係で，詳細は記せないが3回の見学講演会およびシンポジウムの概要は以下に示すとおりである。

平成16年度第3回見学講演会
とき：平成17年2月10日(金)
見学施設：武田薬品工業㈱光工場，講演（同所）

平成17年度第1回見学講演会
とき：平成17年6月10日(金)
見学施設：㈱ツムラ　静岡工場，講演（同所）

平成17年度第2回見学講演会
とき：平成17年9月9日(金)
見学施設：シオノギクオリカプス㈱
講演（やまと郡山城ホール）

第22回製剤と粒子設計シンポジウム
とき：平成17年10月26－27日
ところ：浜松のオークラアクトシティホテル

本シンポジウムは従来より1泊の泊り込み形式で行ってきている。プログラムは特別講演，一般講演（奨励賞対象講演を含む），パネルディスカッションを中心として構成される。パネルディスカッションは講演会場での数分間のイントロダクション（口演）の後，パネル（機器，素材等の展示物を含む）の前で，質疑応答が活発に行われる。また，1日目の夜は懇親会，懇談会と続き，夜遅くまで交流が行われる。今回のシンポジウムも355名の参加者を得て，例年通り繰り広げられた。以下に，主な演題，演題数を示す。

特別講演
1．製剤の開発過程におけるプレフォーミュレーション－医薬品の光安定性評価と製剤設計－：（神戸薬大）松田芳久
2．難溶性薬物への取り組み－三共での経験を踏まえて：（三共）草井　章

一般講演：42題　　パネルディスカッション：31題

3．平成18年度活動状況

平成18年度は，見学講演会を瀋陽（中国）および東京国際粉工展のときに国際フォーラムとして開催するなど，例年以上にバラエティにとんだ企画を実行した。前者では，瀋陽薬科大学および協力企業の現地事業所などを見学した。

平成17年度第3回見学講演会
とき：平成18年2月17日(金)
ところ：日清製粉㈱知多工場,講演(知多市勤労文化会館)

平成18年度第1回見学講演会（「中日製剤と粒子設計研究交流会」として開催）
とき：平成18年5月15～16日(月・火)
ところ：Kempinski Hotel Syenyangと瀋陽薬科大学
講演：テーマ「製剤の新技術と新剤形の開発」の下に，特別講演3題，解説講演1題，一般講演12題。

平成18年度第2回見学講演会
とき：平成18年9月22日(金)
ところ：労働安全衛生総合研究所・産業安全研究所，講演（同所）

平成18年度第3回見学講演会（「第1回 粒子設計・加工技術国際フォーラム」として開催）
とき：平成18年11月10日(金)
ところ：幕張メッセ国際会議場
講演：最近の粒子設計・プロセスに関する3つのテーマの下に，海外からの特別講演者3名を含む計9題

第23回製剤と粒子設計シンポジウム
とき：平成18年10月25－26日
ところ：広島全日空ホテル

参加者380名。近年の本シンポジウムの課題は，定められた会期内に如何に応募一般講演，パネル口演をしていただくかにある。第23回ではこの点を考慮して，イブニングセッションを新設した。学術賞は中国瀋陽薬科大学の崔福徳教授が受賞した。また，本年度よりシンポジウム技術賞が新設された。

特別講演
1．各種メチル化シクロデキストリンの製剤への有効利用（崇城大・薬）上釜兼人
2．製品開発と薬物デリバリー技術－In house or outside ？－（エーザイ）岩本　清
依頼講演：シンポジウム演題で辿る粒子設計技術（アステラス）増田義典
一般講演：40題
パネルディスカッション：38題
イブニングセッション：9題

シンポジウムに関しては，本部行事と位置づけられていることから，今年度より終了後に印象記として本誌に掲載していただくこととなったのでより詳細な報告ができると思われる。

（岐阜薬科大学　竹内 洋文）